

久喜市議会議員 いのまた和雄 声と眼

久喜市議会／市民の政治を進める会



ホームページ

〒346-0011 久喜市青毛1-4-10

電話 090-3547-1240

FAX 0480-23-2471

mail: tomoni@kjd.biglobe.ne.jp

2月定例市議会の日程

- 2月 8日(月)【本会議】市長の施政方針演説
議案の提案と説明
- 21日(日)【本会議】各会派の代表質問
- 22日(月)【本会議】一般質問(1日目)
- 24日(水)【本会議】一般質問(2日目)
- 26日(金)【本会議】一般質問(3日目)
- 3月 1日(月)【本会議】一般質問(4日目)
- 3日(水)【本会議】議案に対する質疑
- 5日(金)総務財政委員会・予算分科会
- 8日(月)福祉健康委員会・予算分科会
- 9日(火)建設水道委員会・予算分科会
- 10日(水)教育環境委員会・予算分科会
- 17日(水)【本会議】委員会報告、意見書
などの質疑、討論・採決

プラ焼却方針の撤回を 4000人の署名

1月22日、ごみ問題を考える久喜市民の会で取り組んでいた「プラスチック全量焼却に反対し、資源化の推進を求める請願」を市議会に提出しました。署名は市内全域で4203筆に達しました。紹介議員として、猪股と杉野議員(共産党)が署名しています。請願審査は3月10日の教育環境委員会で行われます。

世界でプラごみ削減と資源循環の取り組みが強まっています。政府は現在開かれている通常国会に「プラスチック資源循環促進法」を提出し、家庭から出るプラごみについて新たな分別区分「プラ資源」を設けて、自治体に一括回収を求める方針です。これによってプラ資源循環政策が大きく進みます。逆に、久喜市がこれからプラ分別をやめるというのは許されません。



私たちは政務活動費を何に使ったか

久喜市議会では4半期ごとに1人1か月3万円の

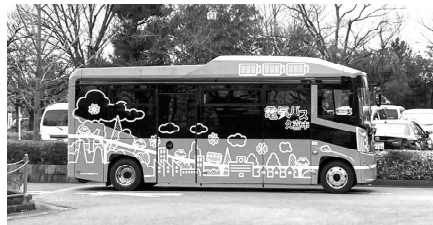
政務活動費が、各会派に交付されています。市民の政治を進める会(猪股・川辺・田中)の第3期=10~12月分の使途報告の明細です。

第2期からの繰越し	▲ 410,810
第3期交付額	270,000
支出	
①調査研究費	25,740
②研修費	5,938
③広報費	354,580
④資料購入費	5,934
合計	392,192
4期へ繰越し	▲ 533,022

10/10 広報費	「声と眼」599号 5000枚 印刷代	猪股 18,000
10/8 広報費	「平和と自治」N0.83 2500枚 印刷代	川辺 29,570
10/27 広報費	「田中勝の議会報告書」第111号 4000部 印刷代	田中 146,300
10/31 広報費	「声と眼」600号 5000枚 印刷代	猪股 18,000
9/22 資料購入費	書籍「プラスチック汚染とは何か」 「14歳からのプラスチックと環境問題」	猪股 2,234
9/27 資料購入費	書籍「コロナ後の世界を生きる」	猪股 990
10/14 資料購入費	書籍「人新世の『資本論』」「SDGs」	猪股 2,100
10/29 資料購入費	情報公開資料「学校給食センター 調理委託事業者プロポーザル審査結果」	猪股 330
10/28 広報費	「平和と自治」N0.84 2500枚 印刷代	川辺 29,570
11/11 資料購入費	情報公開資料「学校給食センター 調理委託事業者プロポーザル提案書」	猪股 210
11/12 研修費	第34回地方×国政策研究会参加費	猪股 2,000
11/12 研修費	第34回地方×国政策研究会交通費	猪股 1,938
11/14 広報費	「声と眼」601号 5000枚 印刷代	猪股 18,000
12/2 資料購入費	情報公開資料「学校給食 食器に関わる物品購入設計書」	猪股 70
12/4 広報費	「声と眼」602号 5000枚 印刷代	猪股 18,000
12/4 調査研究費	タブレット通信費議員負担分(10~12月分)	25,740
12/12 研修費	日本障害者協議会40周年 オンライン集会/シンポジウム参加費	猪股 1,000
12/19 広報費	「声と眼」603号 5000枚 印刷代	猪股 18,000
12/8 広報費	「平和と自治」N0.85 2500枚 印刷代	川辺 29,570
12/25 広報費	「平和と自治」N0.86 2500枚 印刷代	川辺 29,570
10/20 研修費	気候非常事態オンラインセミナー参加費	猪股 1,000

循環バスに電気自動車を導入

市内循環バスは現在、久喜地区8路線をCHG(天然ガス)車の4台が運行しています。



委託事業者が老朽化した1台を電気自動車(EV)に更新することになり、1月26日に試乗会が行われました。走行中のCO2排出はゼロで、発電のCO2発生量もディーゼルの52%、CHGの60%に低減できます。国の補助金も活用し、県内初の電気コミュニティバスです。こうした温室効果ガス排出削減対策に、久喜市がもっと積極的に取り組んで、「2050年CO2排出ゼロ」を達成すべきです。



コロナ禍で生活保護が増え続けている

コロナ禍による失業などで生活保護が急増するのではないかと考えられていましたが、昨年前半は比較的落ち着いて推移してきました。昨年の1人10万円の特別給付金や低所得・ひとり親家庭への臨時特例給付金、住居確保（家賃）給付金などで、かろうじて生活を維持してきたものと思われます。社協の生活資金特例貸付けは4～12月の利用者が1281件、住居確保（家賃）給付金は171件にものぼっています。生活資金貸付けや住居確保給付金は特例で期限延長も行われていますが、それでも生活を支えきれずに、9月以降に生活保護の相談や申請が増え続けています。久喜市の生活保護受給者数は、2019年の1328世帯、1819人をピークに減ってきていましたが、12月末に1321世帯、1750人に達しました。このままでは今後、生活保護世帯の急増は必至です。

一方では、社協の生活相談で『生活保護が適切』と判断されて市の生活支援課を紹介されても、半分以上の人が申請しなかったり、いったん申請しても



途中で取り下げたりするケースも出ています。生活保護を受けたくないという社会的・心理的圧力もあると思われますが、何よりも命が最優先です。厚生労働省もホー

昨年1年間の久喜市の生活保護の件数

相談・申請・保護開始件数、() は前年同月比増減、各月の保護世帯数と実人数の推移を調べました。

月	相談 (前年比)	申請 (前年比)	決定 (前年比)	世帯数	人数
1	37 (▲7)	16 (▲9)	3 (▲6)	1298	1756
2	41 (+7)	22 (+8)	15 (▲5)	1305	1764
3	37 (▲10)	17 (▲3)	18 (+7)	1316	1775
4	52 (+21)	20 (+7)	10 (▲11)	1304	1748
5	34 (▲15)	13 (▲5)	16 (+8)	1311	1752
6	35 (▲5)	17 (+1)	12 (+3)	1304	1742
7	40 (▲1)	17 (▲2)	7 (▲4)	1297	1731
8	43 (▲3)	18 (▲2)	14 (+3)	1305	1741
9	35 (▲15)	17 (+3)	18 (+5)	1308	1744
10	39 (+2)	16 (+4)	11 (▲1)	1310	1748
11	55 (+16)	29 (+7)	18 (+8)	1313	1744
12	50 (+19)	27 (+15)	19 (▲4)	1321	1750
計	498 (+9)	229 (+24)	161 (+3)		

2020年12月 生活保護世帯の内訳

単身者世帯数				2人以上の世帯数				
高齢者	障害者	傷病者	その他	高齢者	障害者	傷病者	母子	その他
594	146	129	143	89	28	31	63	98
1012人				738人				

ムページで『生活保護の申請は国民の権利です。ためらわずにご相談ください』と呼びかけています。

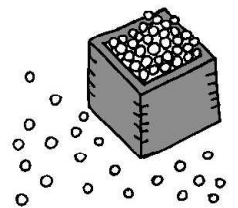
新型コロナワクチン接種の取り組み

1月25日、市は新型コロナウイルスワクチン接種を進めるため、8億7193万円の一般会計補正予算（第9次）を市長の専決処分で決定しました。1月13日にはワクチン接種事業の推進のプロジェクトチームを発足、2月1日に「新型コロナウイルスワクチン対策課」を設置しました。今後、派遣や臨時職員を含めて30名体制で全市民15万2000人へのワクチン接種を推進する計画です。すでにクーポン券などの印刷、コールセンターの設置準備を進めています。

まだ具体的なスケジュールなどは確定していませんが、厚労省の発表や県の資料などによると、まず3月初めから医療従事者（久喜市で約4500人）への接種をスタートする予定です。4月以降に、65歳以上の高齢者（同4万5000人）、引き続いて基礎疾患のある方や高齢者施設の従事者等の接種を優先し、一般市民の接種開始は6月以降(?)になる見込みです。（全体的に当初の想定よりも遅れています）。

それぞれの対象者に対しては、市から3月下旬以降に個別通知と接種券が郵送されます。集団接種と医療機関での個別接種が併行して実施されますが、接種日と会場は電話やインターネットで完全予約制です。久喜市での集団接種の会場は総合体育館を予定していて、1日に500人程度の接種が可能としています。接種後に15分以上は会場で副反応等の経過を観察し、2回目の予約も行うことになります。

問題はアメリカ・ファイザー社のワクチンはマイナス75℃で保存しなければならず、久喜市には国から10台の冷凍庫が2月以降に順次配置される予定です。拠点病院・施設から接種会場となる診療所等へは冷蔵庫で配送しますが、ワクチンはいったん解凍したら5日以内に使い切らなければなりません。対象者への周知、予約、接種履歴の確認、接種状況の管理をいかに行うかが成否のカギを握っています。また副反応を確実に把握し適切に対応することも課題です。



優先接種者以外の一般市民への接種が開始されるころには、アストラゼネカやモデルナ社のワクチンが入ってくると思われますが、今のところ、その時期や接種方法は示されていません。

★2月21日、市長の施政方針に対する各会派の代表質問が、年1回の日曜議会で行われます。昨年、『日曜議会廃止』の意見がありました。傍聴者アンケートの結果、継続が決まりました。★